三鷹に集結。医学部を備えた総合大学 企業と連携し主体性を育む実践型教育

杏林大学／井の頭キャンパス

Kyorin University

2016年杏林大学は、創立50周年を機に三鷹の地にキャンパスを集結。医学部を備えた総合大学の利点を生かした教育をスタート。学部の連携を強化し、地域や企業と深く関わりを持ちながら、社会性を備えた人材育成に力を注ぐ。

取材・文／松村聡子

学部の垣根をなくし、学生間の交流を育み活性化

杏林大学は、都内屈指の人気を誇る吉祥寺エリアに位置する、医療系学部と文系学部を擁する総合大学だ。1966年、現在の三鷹キャンパスに、臨床検査技師を養成する短期大学としてその歴史をスタートさせ半世紀。現在、保健学部、外国語学部、総合政策学部そして医学部の4つの学部に、5,000人以上の学生が在籍している。もともと保健学部、外国語学部、総合政策学部は、緑豊かで広大な八王子キャンパスに設置されていたが、昨今見られる大学の都心回帰の動きを受け、2016年の創立50周年を機に井の頭キャンパスへ移転。三鷹キャンパスに構える医学部とのより良い教育連携及び、これまで以上に活発な学部間交流を目指した学びを実践している。

医療系学部と文系学部を擁する杏林大学における、学部の垣根をなくした取り組みは、学生にとって非常に大きなメリットがある。それは、専攻した学部学科に留まらない広い視野が持てるということ。一般的に文系の学生が医療系の学生と触れ合う機会は非常に少なく、職種への理解は薄い。しかし杏林大学の場合、文系学生における医療系職種や企業への認知が高く、卒業後の選択として優良な医療系企業にごく自然に進むケースも多い。また多様性への寛容も育むことができる。

企業と連携した「学生広報スタッフ」の設置

新しいキャンパスでは、新たな取り組みも始まっている。「学生広報スタッフ」の育成だ。これはオープンキャンパスで杏林大学生のリアルな姿を高校生に体感させるべく、学生スタッフを育成することが大きな狙い。学生たちがネーミングを手がけたMITAI×INOKASHIRAの活動には現在27名が参加し、3期目を迎えようとしている。

活動は外部の広告制作会社の協力を受け実施している。ワーキングスキルやマネジメント、マ

今回話を伺った岡田洋二入学センター長と、野口眞哉課長。MITAI×INOKASHIRA立ち上げ当初は、学生たちの手が上がるか不安があったというが予想以上の成果が得られたと語る。高校生やその保護者にも好評で、オープンキャンパスに参加した高校生から「運営スタッフの学生に将来性を感じ受験した」という反応も。「今後の課題は学内での認知度を上げ、参加する学生を増やし活性化を図りたい」と野口課長。

Interview

信頼できる仲間に会えて、チームで協力する大切さを実感

外国語学部
中国語学科　4年
大原　健楽

学生広報スタッフには3年生の時から、1期生として参加しました。取り組みの中で魅力に感じた点は「自分の思いを形にできる力が付く」ということ。社会に出た時に必ず必要となるスキルだと思いました。活動を通じ実際に形にできたことはたくさんあります。1つ目は、オープンキャンパスでの企画です。専攻する中国語学科所有の、同時通訳ブースの紹介をキャンパスツアーに新たに組み込みました。これは、よく国際会議などで見かける通訳者専用の施設ですがこの設備を伴う大学は珍しく、高校生にも興味を持ってもらえると考えたからです。当日は同時通訳の疑似体験も実施し、たいへん好評でした。

活動を通じもう一つ、得られたことがあります。それは仲間と協力する大切さを知ったこと。これまでの自分は、個人プレーが多く、その方がうまくいくという考えが強かったわけですが、MITAI×INOKASHIRAの活動を通じ人それぞれ色々な考えがある、意見を重ねることでより良いものが生まれると知りました。目標を実現できた時の達成感も、これまでに感じたことのないものでした。同じ熱量を持った信頼できる仲間との出会いが、自身の成長に繋がったと思います。

Information

杏林大学

21世紀に活躍できる人材育成のため、常に新しい教育を推進。学部間や地域との連携教育を充実させ、グローカルな視点を持ち、グローバル社会に即した教育を実践している。井の頭キャンパスは留学生との交流の場である国際交流プラザや、ネイティブ教員と自由に語り合う英語・中国語サロンなどの施設も充実。教員と学生の距離が近く、学生に寄り添った少人数教育を行なう。

●DATA
井の頭キャンパス：東京都三鷹市下連雀5-4-1
TEL 0422-47-0077（入学センター）
URL http://www.kyorin-u.ac.jp

（上）副理事長プレゼンにて採用された「ナイトオープンキャンパス」の様子。夜ならではの演出としてキャンパス全体をライトアップ。高校生に向けて灯篭のワークショップを開催するアイデアも盛り込んだ。この企画に参加した高校生が実際に入学を希望するなど、一定の成果をあげている。（左）副理事長プレゼンの様子。2期目は事前審査を通過した3名が本番プレに臨んだ。副理事長プレを勝ち取った案が今年もまた実現に向け始動する。

ーケティング手法など、業界の最前線から得た情報を活用し、オープンキャンパスで高校生に「いかに杏林大学の魅力を伝えるか」を学生自ら考えていく。

これまで実施した主な活動は、オープンキャンパスでのPRはもちろん、「高校訪問」という形でも実現されている。またPR用の動画も制作。いずれも、学生自ら企画から実行までを手がけ、一定の成果をあげている。この活動は学生の主体性を育むと同時に、通常ではなかなか経験することのできない「企業との協働」という社会活動の側面もあり、学生たちの大きな経験にもなっている。

活動の総仕上げ 副理事長プレゼンを実施

MITAI×INOKASHIRAの最大の取り組みは、「副理事長プレゼン」だ。これは、学生たちが大学をPRするアイデアを考え、経営層に直接提案するというもの。一人30本以上のアイデアを出し、約3ヶ月かけてブラッシュアップしながら実現性の高いものに仕上げていく。一連の流れの中で本物の広告作りに触れ、「アイデアをどう伝え、相手をどう納得させるか」というプレゼンテーション手法も学ぶことができる。前回副理事長プレゼンで採用された「ナイトオープンキャンパス」は、実際予算を投じ実現させることとなった。もちろん学生たちの手で。

自分たちが考えた企画が採用され、形となり世の中に出ていく経験は、学生たちの大きな自信となっている。3期、4期と新たなメンバーを迎え、今後も活動は続いていく。取り組みを通じ学部や学年を超えまた社会人と交流し、コミュニケーション力の向上をはじめとして、社会で生き抜くための様々な力が養われていくだろう。学生たちのさらなる成長を今後も期待したい。